

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスもりのひろば利府園		
○保護者評価実施期間	2026年2月16日～2026年3月3日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61名	(回答者数) 43名
○従業者評価実施期間	2026年2月23日～2026年3月2日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	視覚支援を活用し、見通しを持って安心して過ごせる環境づくり	視覚支援については、全体と個別の両面から取り入れています。物づくりや調理活動では、視覚的に分かりやすい手順書を用い、見通しを持って取り組めるよう工夫しています。自分の力で活動することで達成感を味わい、自信につながるよう支援しています。 また、目標シールやトークンエコノミーカードを活用し、意欲の向上を図っています。	視覚支援のさらなる充実を図るため、児童一人ひとりの理解度や特性に応じた支援内容の見直しや改善を継続して行っています。 また、職員間で支援方法を共有し、支援の質の向上と統一を図るとともに、ご家庭との連携も大切にしながら、視覚支援の活用方法について情報共有を行い、安心して過ごせる環境を継続的に整えています。
2	外出活動を通じた社会性・ルール理解・主体性の育成	様々な活動を行う中で、特に外出活動を通して、外出先でのマナーやルールの理解・習得を図るとともに、公共の場での適切な行動を身につけられるよう支援しています。 また、友だちとの関わりの中でコミュニケーションの機会を大切に、社会性や対人スキルの向上を目指しています。さらに、実体験を積み重ねることで、自信や主体性を育めるよう努めています。	さらに充実を図るため、子ども一人ひとりの理解度や特性に応じた個別の視覚支援や関わり方を工夫し、より主体的に行動できるよう支援を深めています。 また、事前・事後の振り返りをより丁寧に行い、具体的な場面と結びつけながら成功体験を積み重ねられるようにしていきます。 加えて、活動の中で役割を持てる場面を増やし、友だち同士の協力ややり取りが自然に広がるよう環境を整え、社会性や対人スキルのさらなる向上につなげていきます。
3	成長段階や発達特性に応じたチーム編成による支援	令和6年度より単位分け事業を開始し、チャレンジチーム(小学生対象)とドリームチーム(中高生および一部高学年小学生対象)の2つのチーム編成で運営しています。 それぞれの成長段階や発達特性に応じて活動内容や支援方法を工夫し、きめ細やかな支援を提供できるよう努めています。 チャレンジチームでは、身近な生活場面や遊びを通して基本的なルールやマナーを身につけられるよう支援し、ドリームチームでは、就労や生活自立も意識した活動を取り入れています。 また、振り返りや成功体験の共有を行うことで、自信や達成感の向上につながるよう支援しています。	さらに充実を図るため、個々の興味や特性に応じた活動選択の幅を広げ、日常生活や就労に役立つ体験型学習を取り入れていきます。 また、振り返りの時間を工夫し、子どもたちが「できたこと」を実感できる機会を増やすことで、自己肯定感や主体性の向上につなげていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流・地域資源の活用について	地域の子どもたちとの交流や、多様な友だちとの関わりを通じた経験については、今後さらに充実を図っていく必要があると考えています。 事業所内での活動やチームごとの支援を大切にしながら取り組んでいますが、地域の施設や子どもたちと関わる機会については、まだ十分とはいえない状況があります。 また、お子さま一人ひとりの発達特性や安全面に配慮しながら、安心して参加できる形を整えていくことも課題だと感じています。	今後は、地域とのつながりを大切にしながら、交流の機会を無理のない形で少しずつ広げていけるよう取り組んでいきます。 また、合同活動や行事への参加についても、お子さまの特性に応じた支援や視覚支援を取り入れながら、安心して参加できる環境づくりにつなげていきます。 さらに、事前の説明や振り返りも丁寧に行い、交流の経験が自信や主体性の育ちにつながるよう支援していきます。
2	保護者向けの情報発信・家族支援の充実について	保護者同士の交流の場や、きょうだいを含めた家族全体への支援については、まだ十分とはいえない状況があります。 日々の支援ではお子さま本人への関わりが中心となりやすく、保護者同士のつながりづくりや家族全体への継続的な支援については、今後さらに充実を図っていく必要があると考えています。 また、ご家庭ごとの状況やニーズを丁寧に把握し、それぞれに合った支援につなげていくことも課題だと感じています。	今後は、保護者会や交流の機会を工夫しながら、保護者の皆さま同士がつながれる場を少しずつ充実させていきたいと考えています。 また、きょうだい児支援についても、宮城県東部自立支援協議会のきょうだい児ネットワーク会などと連携しながら、参加できる機会や情報を分かりやすくお伝えしていきます。 あわせて、面談等を通してご家庭の状況や必要な支援を丁寧に伺い、関係機関とも連携しながら、ご家族全体を支えられるよう取り組んでいきます。

3	活動環境の工夫と空間の有効活用について	<p>子どもたちがのびのびと活動できる空間については、基準上の広さは確保されていますが、活動内容や利用人数によっては少し手狭に感じられる場面があります。</p> <p>また、限られた施設内で複数の活動を行う際には、動線や安全面にもより丁寧な配慮が必要になると考えています。</p> <p>そのため、活動内容や人数に応じた空間の使い方や環境調整を継続して行っていくことが課題だと感じています。</p>	<p>今後は、活動内容や人数に応じて机や椅子の配置を工夫したり、時間や場所を分けて活動したりしながら、限られた空間をより有効に活用していきます。</p> <p>また、屋外スペースや近隣施設の活用も取り入れながら、子どもたちが安全に安心して、のびのびと活動できる環境づくりにつなげていきます。</p>
---	---------------------	---	---